【4-7 評価シート エビデンス総体】

診療ガイドライン	Hand-held 超音波検査は高濃度乳房に対する乳がんマンモグラフィ検診の補助的モダリティとして推奨されるか？
対象	一般リスク検診受診者
介入	超音波＋マンモグラフィ検診
対照	マンモグラフィ検診

エビデンスの強さはRCTは"強(A)"からスタート、観察研究は弱(C)からスタート
* 各ドメインは"高(-2)"、"中/疑い(-1)"、"低(0)"の3段階
** エビデンスの強さは"強(A)"、"中(B)"、"弱(C)"、"非常に弱(D)"の4段階
*** 重要性はアウトカムの重要性(1～9)

エビデンス総体

アウトカム	研究デザイン/研究数	バイアスリスク*	非一貫性*	不精確*	非直接性*	その他(出版バイアスなど)*	上昇要因(観察研究)*	リスク人数(アウトカム率) 対照群分母	対照群分子	(%)	介入群分母	介入群分子	(%)	効果指標(種類)	効果指標統合値	信頼区間	エビデンスの強さ**	重要性***	コメント
死亡率減少	RCT/0 コホート/0 観察研究/0																	9	マンモグラフィ検診に補助的に超音波検査を加えた際の死亡率減少効果に関して、現在のところ公表されたデータは存在しない
感度	RCT/1 コホート/1	0	0	0	-1	0	0	152	117	77%	262	236	90%				強(A)	8	超音波検査を加えた際の癌発見率上昇の報告は多いが、感度まで示した報告は2件であった
要精査率上昇	RCT/1 コホート/4 観察研究/0	0	0	0	-1	0	0	35965	3153	8.8%	36725	4647	12.6%				中(B)	7	RCTでの比較は1件のみ。マンモグラフィで異常所見のない、高濃度乳房症例に超音波検査を施行した報告が4件見られる
費用増加(費用対効果について)	コホート/2 シミュレーション分析/1	-2	0	-1	-2	0	0										非常に弱(D)	6	コホート研究2件、モデル・シミュレーション分析した報告が1件。国、保険制度によりばらつきが大きい

コメント(該当するセルに記入)